



# 町内会短信 8月号

2022年8月1日 川沿中央第一町内会長 金山征晴

葉月

先月短信でアパホテルのコロナ療養施設が閉鎖された事をお伝えしましたが、まちづくりセンターから「廃止」ではなく「休止」ですと指摘されました。改めて短信を見直すと確かに「廃止」としていました。言葉の選択に少々慎重さを欠いていたでしょうか。私が原稿を書いたときは、感染者の減少傾向が続いていました。7月にはいると瞬く間に感染拡大が激しくなり、アパの療養施設も早くも再開となりました。少しでも早く減少傾向に転じて、「休止」でも良いから事態が好転してほしいものです。

## 7月の町内会活動報告

- 7月 3日(日) 役員会
- 7月 6日(水) どんぐり公園清掃 (Eグループ)
- 7月12日(火) 事業検討委員会
- 7月13日(水) 資源回収 / ふれあいガーデン整備
- 7月20日(水) どんぐり公園清掃 (Aグループ) / 交通安全啓発活動に参加
- 7月27日(水) ふれあいガーデン整備
- 7月26~30日 ラジオ体操(どんぐり公園)

## 8月の町内会活動予定

- 8月 2日(火) 避難所運営研修 (2名参加予定)
- 8月 3日(水) どんぐり公園清掃 (Bグループ 9:30)
- 8月 6日(土) セタ子ども会 (18:30~ どんぐり公園)
- 8月10日(水) 資源回収 / ふれあいガーデン整備 (8:30)
- 8月17日(水) どんぐり公園清掃 (Cグループ 9:30)
- 8月24日(水) ふれあいガーデン整備 (8:30)
- 8月31日(水) どんぐり公園清掃 (Dグループ 9:30)

## コラム

【川沿の小窓から ③】川沿中央第一町内会 相談役 柴田田鶴子

私の2階の居室から見おろす位置に我が家のささやかな花畑がある。今、カサブランカが数本つぼみをふくらませつつある。贈ろうと思っている方々の顔が何人も浮かぶ。46年間に及ぶ学童保育指導員時代、私は「花より団子」であった。家の周りは全部野菜畑、預かる子どもは親を選べない、いわゆる『親ガチャ』である。幸せな子もそうでない子もひっくり返して私は、働く親を持つ子供たちに「母さんの味」を伝えるべく無農薬野菜づくりに子どもと共に汗を流した。とれたてきゅうりを塩もみして手づくり味噌で食べる。真っ赤に熟したトマトは湯むきしてハチミツにつけ、冷やして食べる。枝豆は根こそぎ抜いて豆を取りゆでて塩振って食べる。豆ごはんも人気であった。「これが本当のコーン？」と言ったのは、一年中冷凍コーンを食べていた子にもぎたてをゆでて食べさせた時の感想。そんな私に花の愛を教えてくれたのは、触れ合いガーデンの花守の尾崎進氏であった。 → 裏面につづく

氏は早朝 4 時～5 時起きで、3 年間ガーデンの手入れをし、見事な花を咲かせてくれた。(今はボランティア 6～7 人で花守をしている) 折々丹精込めた花が氏の笑顔と共に拙宅に届けられた。氏の入院前日という日にも花束が笑顔と共に届けられた。花がこんなに人の心を和ませることを私は氏から教えられた。

4 年前、母子家庭として苦楽を共にした実兄が死去、翌年の初盆には兄の墓前にカサブランカを供えたい一心で、私は秋口野菜畑の隅にカサブランカを植えた。以来4 年間カサブランカは少しずつ増え、近しい人達へ私も尾崎氏を見習い、花のプレゼントを続けている。花束を作る時、私はいつもこの平和な日常が続くことを祈るのである。

## 郷土史より (視野を広げて) — 民俗学の先駆者・近藤富蔵(3)

郷土歴史家 吉田邦行



15 不法行為を犯し、乱暴狼藉を繰り返す半之助らを討った旗本が、監督不行き届きで改易の重罪に処せられた背景には、重蔵の高慢な態度に対する幕閣からの反感があったからで、言わば身から出たサビである。

16 大溝藩へお預けとなった重蔵は、改易処分にさほど動ぜず、預かりの身など気にかかる様子もなく平然たるものだった。やがて藩士や子弟に漢詩や蝦夷地探検の講義をして退屈さをしのいだ。

17 一方富蔵は、小伝馬町の牢獄の劣悪な環境をものともせず気丈であった。近藤家に迷惑をかけてもなお、反目していた父との和解が精神的に大きかったかもしれない。翌年八丈島へ流罪となった。

18 八丈島に着いて次の年、富蔵は流刑地で宇喜多秀家(豊臣秀吉の五大老の一人。岡山の領主。関ヶ原の戦いでは大阪方の謀主だったが、敗れて八丈島に流された。)の次男の子孫にあたる逸(いつ)と結婚し、後に一男二女の父となる。

19 大溝藩での重蔵は、預かりの身になって3 年後病死した。自由奔放に生きたが、国を憂い東奔西走し、多数の蝦夷地に関する建言書や地誌書を献上した無類の豪傑は、近江国大溝藩内円光禅寺で眠る。

20 流刑地での富蔵は、生きていくために糧を求め、島民からの賃仕事、系図の整理、仏壇仏具の修理、仏像彫り、石垣積み、畳づくりなどの仕事をしてその日暮らしの貧困の生活であった。

21 「島流し」といっても、その島で牢に入るわけでもなく、島で自由に暮らせるのである。早い話し、江戸からの追放である。この八丈島には、江戸時代から明治初年までに1,700 人(年平均65人)余りが流されてきている。(次号につづく)